

職員の皆さんへ

私は、先月15日に告示されました市長選挙におきまして、三期目の当選をさせていただくことができました。

結果として二期連続の「無投票再選」ということになりましたが、これは初登庁の挨拶でも申し上げたように、これまで二期8年間における市民各位のご理解と職員皆さんの弛まぬご努力による市政執行の実績が評価された現われであり、この勢いをもってさらに「ふるさと平戸の活性化を実現してほしい」という幅広い期待と信任であろうと思っています。改めて、自ら身を削る改革や幾つもの行政課題に真摯に向き合い、解決のために努力を惜しまず頑張ってくれた皆さんに心から感謝の意を表します。

私は、後援会パンフレットの表題に「プレミアムな平戸へ進化を続けよう！」と呼びかけましたが、この意味するところは、私たちは決して現状に慢心することなく、さらなる次のステージに向かって努力を惜しまず精進していこうという確認にほかなりません。

一方で、過疎化や少子高齢化は一向に緩むことなく将来不安として地域全体を覆っています。このまま人口減少が進めば地域の活力が減退するばかりか、行財政を遂行する上でも交付税の削減など現実的な危機が否応なく襲い掛かってきます。そのためにも実施後三年目になる「平戸市総合戦略」をさらに加速させ、ずっと住みたくなるまちの創出に尚一層、市民の皆様との強固なスクラムとチームワークによって、この深刻な課題を解決に導くために、さらに全力を傾注する決意であります。

さて私が描く「次のステージ」とは、これまでの8年間で市民の皆様との協働事業による「ホップ・ステップ」の段階だとすれば、三期目はいよいよこれらの実績に弾みをつけた「ジャンプ」として、平戸市の魅力や可能性を評価し、私たちの取組みに賛同してくださる市外の理解者・協力者との連携を今後の課題解決に結び付けていくことを意味しています。

すでに首都圏や関西圏、福岡経済圏などの都市部において、平戸産の商品を取り扱ってくださる事業所は53店舗にも増えていますし、それぞれ売り上げ実績を伸ばしていることから、益々全国の平戸ファンは増加傾向にあると言ってもいいと思います。

また一つの具体事例として、観光ホテル蘭風の経営を引き継がれた湯快リゾートさんをはじめ、各ホテルや宿泊施設も滞在客増加が着実に伸びており、特に湯快リゾートさんによる福岡間の送客サービスや市内周遊サービスもこのプラス効果に大きく貢献していただいています。

魅力があり楽しくチャンスに溢れている地域にこそ人は集まります。平戸がそうした舞台になりつつあることがこうした事例を通して実感できますし、平戸市全体として更なる

高みを目指す原動力につながってきます。

現在、三期目の節目として第二次平戸市総合計画を策定中であることはご承知のとおりです。これは平成30年度から向こう10年間のまちづくりの指針でもあり、そのタイトルは「平戸市未来創造羅針盤」と名付けられることとなっています。

まさに私たちの先祖が、海に囲まれた環境の中、海の恩恵を最大限に活かし、当時の日本を代表する海外貿易港としての役割を果たしながら、時代の先端を築いてきた歴史に示されるように、これからの不透明ともいえる未来を創造していくための「羅針盤」としてこの計画を市政施策の最上段に掲げ、市民の皆様とともに実践へつなげていくための設計図として活用したいと思います。

この総合計画は現在公開され、市民の皆様からのパブリックコメントをいただきながら、議会の承認を経て年度末までに完成させていくこととしております。その中で第四章「未来への航海」がありますが、ここに挙げた5つの主要課題から浮かび上がる理念こそが重要なので、あえてこの機会に紹介したいと思います。

まず一つは「未来の羅針盤となる人をつくる」ということです。

あらゆる施策は行政が条例や予算を整備し遂行されますが、ここで不可欠なのは、その施策を誰が、誰と組んで実施するかということです。これは以前にもGW上の市長訓示で記していますが、この担い手となる「人材」が重要です。すでに生涯学習都市宣言をしている本市は地域やあらゆる組織の中で育まれた人材が、それぞれのリーダーとしてさらなる牽引力をもって羽ばたくことができる環境を整備しなければなりません。

次の二つ目は、「まちの灯台を灯す絆を紡ぐ」ことです。

表題が「航海」なので言葉自体が抽象的になっていますが、つまり地域コミュニティにおける個々人の絆をより強固なものにすると同時に、平戸へ心を寄せてくださるボランティアなどの応援団やふるさと納税の寄付をしてくださる市外居住者、そして平戸市とともに事業を展開している、あるいは今後パートナーになりうる事業者の方々との連携をより強化するということです。いつの時代も次のステージに進化していくためには、新しい視点やエネルギーが不可欠となってきますので、そうした外部の仲間との絆をより強めてまいりましょう。

三つ目は、「魅力を描いた帆をあげる」ということです。

計画をいくら立案し、施策や予算を用意しても、それらが市民の皆様の賛同を得られなければ「絵に描いた餅」になります。「魅力ある」ということは、誰もが賛同し力を結集できるシンボルとならなければ意味がないということです。

そして、誰もが目にしたその帆が風というエネルギーを蓄え、目指すべき目標に向かう原動力にしていくためには、「魅力」という「惹きつける風」つまり「時代のトレンド」を察知しながら、平戸市の潜在力（ポテンシャル）や可能性と照らし合わせ、これを磨き上げていくことで更なる推進力を増していくことが重要です。

四つ目は、「強く漕ぎだす産業をつくる」ということです。

このことは船に例えれば「エンジン」という動力部分ですから、最も重要な内容です。いくら人が集まっても、そこに産業があり生活を支える基盤が存在しなければ永続的なものにはなりません。また人口減少を解決に導く最終的な解答もこの「産業育成」に尽きるのではないのでしょうか。これまで継続されてきた基幹産業である農林水産業や観光業をさらなる価値をもって伸ばし、あるいは広げてこれまでにはなかった可能性を生み出すような仕組みづくりを実現してまいりましょう。

五つ目は「自ら経営の舵を切る」ということです。

船はひとたび港を離れますと、自らの動力に加え風向きや潮流によって進んでいきますが、絶えずその方向性をチェックし気象条件や航路の確認をしていかなければ船は難破します。絶えず計画遂行に関して細心の注意を払いながら、しかるべき時に軌道修正を行うなど進捗管理や速度調整が必要です。「誰かにまかせっきり」とか「そのうち検討する」という姿勢では方向を見失ってしまいかねません。

そして改革にはいつの時代も痛みが伴います。決して現状に甘んじることなく、過去を振り返りながら、未来を見据えて「今なにができるか」という使命感に基づいて改革マインドを胸に刻み続けてほしいと思います。

こうした五つの観点を常に意識し、この総合計画の実践へとつないでいきたいと思いません。そして三期目の私自身の役割ですが、これまで以上に市民の皆さんと対話する機会を増やしていきたいと思いません。

これから予定されている事業には、必ずしも地域や市民の皆様に歓迎されることばかりではありません。時には我慢や犠牲をお願いすることもあります。そうした時にこそ市長自らがその判断の根源と必要性について説明し理解を求めていく責任があると思いません。かつて職員の皆さんの気持ちの中には「市長の判断は最後に示されるものだから事前に自

らが切り開こう」という責任感で重い荷物を背負ってきたこともありました。それはそれで大変尊いことでもあります。市民の皆様にとっては分かりづらく、スッキリしないこともあるのではないのでしょうか。

だからといって私の立場が「万能」だとは決して思っておりませんし、幅広いご意見に耳を傾け謙虚に対応を重ねていくことでお互いに理解が深まることも大いにあります。そして、そうした過程を経て得られた結果というものは、私たちが期待していたもの以上の価値が見出されることもあります。今月予定されている生月町人形石斎場についての意見交換会はまさにそのための取り組みでもあり、今後につながる試金石でもあると思います。

これまで述べてきた総合計画の理念と私自身の政治姿勢をここに改めて明らかにするとともに、これまで以上に市民協働のまちづくりを進めることによって、数々の政策課題をクリアし、次代に誇れる平戸市建設に全身全霊を傾けてまいりますことを三期目の節目に当たって改めてここに宣言します。

さて市長選挙と同日の告示日で実施された市議会議員選挙におきまして、新人4名を含む当選された議員各位に改めてご当選をお祝い申し上げます。定数を二議席削減することと合わせて、常任委員会も二つに集約されるなど議会改革も着実に進められています。

よく「議会と行政は車の両輪」と例えられますが、この言葉の意味するところは、まず進むべき方向が同じであることです。それぞれの車輪が逆方向に回転すれば同じところをクルクル回るだけで前に進みません。そして、両輪をつなぐシャフトが「相互信頼」というしっかりした構造でなければならないし、一定の距離を保って切磋琢磨するという「間合い感覚」も重要ではないのでしょうか。

この8年間を振り返って、私自身、議会の皆様のアドバイスに救われたこともありますし、これからも適切なご指摘によって良好な行政運営がなされるものと確信しています。

今後ともこうしたパートナーシップを阿吽の呼吸で運営していただき、引き続きご指導賜りますようお願いいたします。

以上、三期目の就任に当たり所信の一端を申し上げ、訓示といたします。

ありがとうございました。

平成29年11月8日

平戸市長 黒田成彦